

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600094		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑 グループホーム はるか(2階)		
所在地	帯広市西18条南2丁目6-4		
自己評価作成日	令和 5 年 8月21日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 1 月 9 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600094-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和5年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様1人1人のこれまでの暮らしに大切にしながら、ご家族様含め希望や要望に沿った生活の実現に向け、その人にスポットをあてた活動なども提供できるよう心掛けています。毎日の生活の中での役割を大切に、季節にあったホール内の装飾も利用者様と楽しみながら一緒に作るなど、利用者様が今出来ていることを続けられるようお手伝いさせて頂いております。毎日の日課を元に、就寝時間などその方にあった生活サイクルの中で過ごして頂けるよう対応しています。食事もご家族様の協力を得ながら、その方の好きなものを提供するなど、施設での提供する献立以外にも対応しています。コロナの緩和に伴い、ご家族の面会を再開しています。時間制限は15分となっておりますが、ご家族様や利用者様も大変喜ばれています。毎月利用者様のご様子を個々に手紙としてご家族に届ける事も継続しています、ご家族様とのつながりが切れることのないよう工夫しながら、定期的にご家族様とコミュニケーションを図るよう対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体のケア理念を玄関に掲示し、利用者様やご家族様だけでなく、職員にも毎日目を止めるよう心掛けています。また職員会議などを通じケア理念の理解、実践に向けての取り組みを行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板を回したり、コロナ禍で町内会行事への参加は現在していませんが今後は参加をしていく予定です。毎日の出勤退勤時等、率先して挨拶は継続し、行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の機会を通じて情報発信を行い、グループホームでの生活の様子等伝えていきます。認知症に関する相談なども、積極的に対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度からコロナ緩和のため、集合会議を開催し、コロナ禍での行事、クラスター時の様子など直接お話をしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的な情報交換、情報提供等、電話を中心に行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設におけるマニュアルを配布し、毎月の会議の中で、身体拘束についての確認、勉強を行っています。また法人内での身体拘束に関する研修会に参加し、学んできたことを、職員にフィードバックし、理解を深めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても身体拘束と合わせて、会議や勉強会で話す機会を持っています。また個々の職員とも日常的に話す機会を持ちながら、その理解に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の利用者様の状況を勘案しながら、成年後見制度を学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、個人情報等について、ご家族様含め時間を取って説明し、理解と同意を頂いてからの契約行為を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き、意見を頂いています。また面会時や通院同時など、直接ご家族様と話す機会を作り、随時ご意見、ご要望を確認しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ごとの会議や法人役職者の会議など通じ、それぞれの会議で得た情報を伝え、状況の把握を行っています。その上で、運営に関する提案の機会を作っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には先輩のお世話係をつけ、1年を通じて育成を図り、双方が学べる機会、環境を作っています。個々の職員の心の動きなど把握するために、日常的な会話や面談を行い、継続的なサポートを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会を作り、各委員会への研修参加や勉強会を開催し、学びの機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームや地域の研修会への参加を通じて、ネットワーク作りや知識向上の機会を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時より担当職員を決めて、その職員を中心に事前の聞き取りから得た情報等を利用してご本人に職員がご本人を良く理解して尊重している事を伝えています。また、周りの利用者様とも早く馴染める様に共通の話題を提供して交流を図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には事前に見学して頂く機会を設け、実際に見た上での具体的な心配事などを詳しく傾聴するよう心掛けています。また利用開始後もご家族へは、毎月写真やご様子報告の手紙を送っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	集めた情報を元にチーム内で話し合い、必要な支援や適切なケア方法を検討し、職員間で情報共有し、その方が望む生活の実現に向け、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から居室の清掃や洗濯物畳み、食器洗いなどその方のADLに合わせた家事の手伝いをし、頂いており、都度感謝の言葉を掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の消耗品や、利用者様の意向に沿ったお買い物をご家族様にお願いしたり、通院も可能な限り同行して頂いて、その時に伝えきれない利用者様の普段の様子を共有出来るようにお話しさせて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍だった為、知人との面会や町内会の行事等には参加できなくなりましたが、昔からのかかりつけ医への受診や往診対応は継続して行っています。現在は直接面会（15分）、外出も可能になっています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールや食卓テーブルの位置は利用者様同士の関係性や相性をみながら都度変更しています。家事作業も協力して行えるように工夫したり、レクリエーションも個々ではなく、皆さんで楽しめるカルタやトランプ、風船バレー等を実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族のご要望に沿って、次のサービスへの相談・各種申請支援を行っています。こちらの持っているその方の情報を詳しく送り、これまでの生活と変わりなく過ごせるよう支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に日頃の会話や訴え、様子を把握し、その方の希望や意向をくみ取り、チームノートやグループホーム会議で情報共有を図り、その実現のための検討を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に多職種で面談し、利用者様やご家族様、関係機関の方に詳細に情報収集しています。またご身内の方の面会時、いろいろな方に昔の様子など話を聞く等継続的な情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やチームノートへ記入し、勤務交代時には口頭でその日の詳細な様子を申し送っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の会話を通じて、その方の思いをくみ取り、面会や電話等でご家族様からも話を聞いて、毎日の送りや会議で報告し、チーム全体で検討し、介護計画書への反映に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やチームノートへの記入、送りを通じ職員間での情報共有を図り、必要時にはその日の勤務者や会議での話し合いの機会を設け、介護計画書の見直し、ケア方法の統一化を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の各専門職と相談したり、歯科往診や受診相談、マッサージやヘルパー、介護タクシー等も利用しながら必要な支援の組み立てを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会への参加や、現在は開催できていませんが、今後は、以前の様に町内会との交流を図っていきたいと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診前にはご家族へ受診相談し、同意を得て受診しています。受診時も職員が同行し、医師への状況報告を行い、同行できるご家族と一緒に付き添って貰っています。ご家族が同行できない時は、受診結果をご家族へ報告しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月の往診時には必ず施設内の看護師に同席をお願いし、個別の通院記録も提出して個々の現在の状況を共有した上で、不調時には看護職員にみて頂き、相談して必要時には受診対応行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や入院時は必ず職員が病院に同行し、普段の様子や介助時の注意点を担当看護師に申し送り、コロナ前は頻繁にお見舞いに行き、ご本人や病院職員に状態を伺っていました。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃からご本人の様子をご家族様にご報告し、状態の変化は共有するように努めています。また、状態に合わせた介護認定の区分変更や事業所での対応出来る範囲は明確にしてお伝えしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルの他、急変の恐れがある利用者様が居る時は事前に担当医と相談して搬送の目安を設け職員間で共有しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定と夜間想定防災訓練の他、水防災害の避難訓練を実施しています。コロナ禍前は地域の消防署と連携し消火訓練や業者から防災無線のレクチャーを受けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室に入室する際は必ず同意を得るか、一緒に同行して頂き、居室の整頓等もご本人に確認しながら一緒にを行っています。また、失禁等の対処時も周りに気が付かれないよう配慮して声掛け行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から何でも話せるような関係づくりを心掛けるとともに、日課・家事作業・レクリエーションなど何かを行うときは必ずご本人に同意を取ってから希望に沿って行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は個々に合わせて対応しています。日課も設けてはいますが、ご本人の意向に沿って中止したり時間をずらして行うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットやヘアカラーはご本人の希望に沿って定期的に機会を設けています。その日着る服は起床時にご本人と一緒に選ぶようにしています。また、お化粧される方にはお誕生日に化粧品を贈ったりしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	視覚・嗅覚を刺激して食事を楽しんで頂ける様に、盛り付けと一緒にいたり、食事会の際は目の前で調理を行っています。片づけは下膳や茶碗洗いを行って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日・毎食の食事量の記録を行い、毎月1回体重測定(必要な方は週1測定)を行い状態の把握を行っています。食事形態も体調やその方の咀嚼能力に応じて提供し、好みに合わせて冷たい物・暖かい物・甘い物等摂取しやすい水分を時間を問わず提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアのお声掛けを行い、その方の口腔状態に合わせたケアセットの用意をしています。また、年1回歯科検診を行い、必要な方には定期的な歯科往診を受けて頂いています。必要な方には仕上げ磨きもさせて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導の他、その方の排尿間隔に合わせた声掛けを行っています。また、トイレに行きたくない時の様子を職員間で共有し、タイミングを逃さないよう気を付けています。夜間は無理に誘導せず、睡眠を優先しその方に合ったパットの種類を検討しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の時間や形状は記録に残して職員間で共有し、個々のパターンの把握を行っています。水分は1日1500ccを目標に摂取を促しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めずに週に2回を目安に、日によって午前・午後と入浴を行っています。その日の体調を伺い、ご本人の気がすまない時は中止しています。個々のお湯の好みを把握して、歌の好きな方には浴室で音楽を流して楽しんで頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の習慣や体調・体力を考慮して、午前・午後問わず入床して休んで頂く時間を設けています。寝具もそれぞれ今まで使っていた私物を使用して頂き、その方に合わせた物を使っています。週に1回は洗濯して快適に休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬は一度預からせて頂き、日付を記入して管理し、内服時にご本人と一緒に確認してから内服して頂いています。個々のファイルにその方の既往歴と現在治療中の疾患・飲んでいる薬の薬情や経過をまとめて職員間で共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	最初の面談は勿論、利用者様との日々の関りの中や、ご家族様とお会いした時に出来るだけ情報を引き出し、その方に合わせた行事や日課（畑仕事・裁縫・料理等）を日々の生活の中に組み込んだり、嗜好品はおやつに取り入れて提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍だった為、現在は自粛していますが、自宅でご家族様と食事をして頂いたり、一緒に外食に出掛けていました。今は天気や体調を見ながら近所のお庭にお花を見に行ったり、苑の畑で花の水やりなど一緒に行っています。今後は、外出する機会を設けていきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではありませんが、こちらで所持金を預からせて頂いて、必要時にはご本人と一緒に残金を確認して買い物の代行を行っています。レシートと収支はご本人と一緒に手帳に記入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望された時はいつでもお電話を繋いでお話して頂いています。毎週決まった曜日に電話を掛ける方や、オンライン面会を利用される方など様々です。ご家族様に向けた絵手紙をレクリエーションで作成し、職員が書く毎月の手紙と一緒に送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度の管理を行い、快適に過ごせるよう環境の整備・清掃を行っています。テレビの前にはソファを配置して、それぞれ好きな所で過ごせるようにしています。ホールには季節や行事毎に飾りつけを利用者様と一緒に作成して、製作を通して季節を感じて頂ける様に工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは食堂と兼用ですがテレビの前には2人掛け・1人掛けのソファを配置し、廊下にもベンチや一人掛けの椅子を用意して、お一人お一人が好きな所で過ごせるように工夫しています。書き物をされる方はそのまま食卓テーブルで作業されたりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具はご自宅から持参して頂き、馴染の物を使用して頂いています。居室にはご家族様の写真や好きなお花や動物の写真を飾ったり、テレビや冷蔵庫を設置されている方もいらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設置したり、トイレも利用者様の目線から見て分かりやすい場所にポスターを貼っています。廊下も車椅子の方とでもすれ違いやすいように広めに取り、床に障害物は置かないようにしています。		